

銀漢亭日録



伊藤伊那男

10月9日(月)▼午前中、「春耕賞」選句。応募四十二編。志村昌さん

から「運慶展」の券いただいたので上野東博へ。予想ほどの混み方ではなく、三時間ほど楽しむ。折角来たので茶器の部屋も。あとアメヤ横丁の「大統領」で煮込と串焼でビール。

10日(火)▼超結社句会「火の会」休みの方多く、太田うさぎ、天野小石、齊藤朝比古、山崎志夏生、阪西敦子、峯尾文世の面々。

11日(水)▼高幡不動尊の川澄祐勝大僧正遷化の報。「銀漢」にも基金その他、御支援を戴いた恩人。

12日(木)▼「極句会」あと九人。新しい方も入会している。

13日(金)▼藤森莊吉さんの「問句会」八人。遅くにうさぎさん来たので「大金星」へ。そこへ一斗さん。

14日(土)▼九時半、発行所にて拡大編集会議と運営委員会。十八人集合してくれる。午後、麹町会館にて「銀漢本部句会」六十二名。馬場龍吉さんも参加して下さる。あと中華料理店にて親睦会。

15日(日)▼「春耕賞」選句終える。店、「演劇人句会」の十人。他、閑散。七日ほど冷たい雨が降り続く。

18日(水)▼久々の快晴。十一時、高幡不動尊へ。第三十三世貫主・川澄祐勝大僧正の告別式へ。導師は川崎大師の御貫主。享年八十七歳。店「三水会」五人。閉めて、五、六人で「ふくの鳥」。

20日(金)▼また雨。「銀漢句会」あと十三人。寒い一日。

21日(土)▼雨。「銀漢鍛練句会」の日。一応、本郷に来たので東大

赤門を潜る。十三時、ホテル機山館。三十人。持ち寄り十句で一回目句会。十七時夕食。十九時半から二回目句会十句。二十二時、終わって少し飲む。

22日(日)▼九時より、三回目句会。十句。十一時半、終わって近くの台湾料理店にて打上げ。台風が近づいている。

24日(火)▼堀切克洋君、今年度の「北斗賞」受賞と。快拳！ひまわり館に「萩句会」選句。店、法政大学高柳先生と飯田高校の方々五人。

25日(水)▼「雛句会」十三人。発行所は谷岡健彦・堀切克洋さんの座談会。前回はいつだったか記憶がないが久々の休肝日とする。

26日(木)▼店、ORIXの後輩三人。皆川丈人、文弘さんひよっこり。二十二時閉めて久々「天鴻餃子房」。

27日(金)▼「金星句会」あと六人。堀切克洋君の「北斗賞」、小田島渚さんの「角川俳句賞」候補にヴァクワリコで乾杯！「青垣」の石井さん、大王製紙の田中役員など。

28日(土)▼十二時、名古屋。栄の「囲み屋」。堀江美州さんの『幕末の大儒学者「佐藤一斎」の教えを現代に』の出版記念会。武田さんと「名古屋句会」のメンバー集合。萩原空木さん元気。中村絃子さん久々。定例会の披露も併せて。一斎の言の葉永遠に柿日和。伊那男。あと喫茶店で歓談し別れる。

29日(日)▼台風到来の中、九時、新百合ヶ丘駅。「早蕨句会」の吟行会に招かれて。何と二十数名集合。バスにてあざみ野。電車にてセクター北。「大塚の歳勝土遺跡」→「茅ヶ崎城址」→「正覚寺」と雨中を歩く。秋元さんの案内。町田に戻って昼食あと句会。何と、駅近くで島谷操さんとはったり会う。三句出し。終わって沖縄料理店「ニライカナイ」にて親睦会。凜子さんお世話になりました。

30日(月)▼十二月号の選句、執筆。店「雲の峰」の高野清風同人会長、酒井多加子、京子、次郎、庄平さんなど。吟行あと。高井戸時

の方々。

8日(水)▼発行所の「梶の葉句会」選句。十六時半、毎日新聞の「俳句あるふあ」の編集部中島さん、来年の料理と俳句についての連載の打ち合わせ。国会議員のT先生来店。総選挙勝ち抜いて議員生活は二十七年目へ。乾杯！

9日(木)▼十四時、発行所にて「銀漢賞」「星雲賞」についての最終選考。禪次、静男、眞理子、大和と全員揃う。あと静男さん店へ。発行所「極句会」あと十人店。

10日(金)▼十九時過、家族来店。孫の一人は初めて。二十時半「大倉句会」あとの十七人。清人さんの鮪刺身、焼きそばなど。

11日(土)▼十二時、日暮里本行寺。「二茶山頭火俳句大会」の選者として。銀漢から十数名参加。当日句選句の間、有馬朗人先生の講演あり。一時間立ったままの講演には頭が下がる。終了後は、「又一順」にて慰労会をして下さる。銀漢の仲間とは違う所で飲んでいて、追って水内慶太氏とそこへ合流する。

12日(日)▼終日家。「俳句」一月号の「四週間で切れを使いこなせ」の特集の「上五で切る」について八枚書く。へとへと。夕食、家族で鶏鍋など。

13日(月)▼「銀漢賞」「星雲賞」の応募作品各一句選後、評など。店、予約等なく閑散。色々と仕込み。久々に来店客、本屋で私のエッセイ集見つけ五冊買って知人に配ったと。有り難い。

15日(水)▼店「京鹿子」の方々四人。「俳句」元編集長の鈴木忍さん夫妻、八か月の赤ちゃん。岸本葉子さん句会巡りのエッセイ集出版。「火の会」の実況も入っており、届けて下さる。十九時、石寒太先生の「炎環」宮本佳世乃さんの現代俳句協会新人賞受賞祝賀会。寒太先生はじめ、「炎環」の方、佳世乃さんの俳句仲間の錫田智哉、田島健一、四谷龍さんなど四十六人で祝う。

代の整体師中村先生、七人。「天為」の笹下蟠螂子さん。鳥織布句集『犬の瞳に』、田中敬子句集『機之音』完成。発送業務。

31日(火)▼有澤志峯さん久々。「春耕吟行会」あとの池内けい吾、袖口満、暮目良雨、窪田明、奈良英子さん他、寄って下さる。須磨の石井さん、京都の笹下蟠螂子さん。二十一時半閉める。

11月1日(水)▼「宙句会」あと十一人。全体閑散。

2日(木)▼彗星集評書いて十二月号終了。やっここと。店、村上朝彦(「南風」主宰)、今泉礼奈さん、婚姻届けの保証人に記名捺印。おめでとう。来合わせた皆川文弘さんがヴァクワリコ開けて乾杯！水内慶太(「月の匣」主宰)、亀戸弥助寿司の鯖鮨の太

棹二本持参で。環順子さん。

3日(金)▼午前中エッセイ一本。十五時、銀漢亭お手伝いの会第二回を森下の馬肉屋「みの家」。うさぎ、小石、いづみ、凱さんに、伊那北同期の井蛙、光汪君。堀切君も誘う。四句出し句会。馬刺、鍋とよく飲み、よく食べる。すぐ近くのバブにて二句出し句会、一句出し句会。お開きで駅に向かうと休業日と思っていた「山利喜」が開いていて、席が空いているというので上がり込む。ひれ酒、名物の煮込みとハンなど。

4日(土)▼十時、発行所にて運営委員会。麹町会館にて「銀漢本部句会」五十四人。早めに切り上げて、杉阪、禪次、眞理子さんと銀漢賞の第一回選考。あと親睦会に合流。

5日(日)▼昼過、中野サンブラザにて「春耕同人句会」。五十数名。終わって親睦会は失礼し、帰宅。桃子さんの誕生日の前夜祭。清人さん経由で気仙沼大島の剥身、牡蠣三キロ。帆立十枚。

6日(月)▼十二月号の校正。店、「かさ、ぎ勉強会」あとの八人。梅田津(「銀化」)さんグループ定例会四人。王子製紙の田中役員六人など。羽黒三光院より庄内柿到来。

7日(火)▼広渡敬雄さん、九州大学時代の友人と、五人。昨年、「俳壇賞」受賞の蜂谷さん個展のあとの小島健、錫田智哉、「玉藻」